



小牧幼稚園 園だより 第362号 2020年12月
教育目標「神を敬い 人を愛し 平和を作り出す子どもを」
年主題「こころが満たされる」
年聖句「喜びと平和とであなたがたを満たす」ローマ 15 : 13

皆さま、はじめまして。この4月から小牧教会の牧師として就任いたしました、田中郷史(たなかさとし)と申します。本来であれば、早い段階で皆さまにご挨拶をさせていただければと思いましたが、この度の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、今になってしまいました。少し、自己紹介をしますと、私は生粋の名古屋人です。親族共に代々、名古屋の人間です。私自身は大学進学時から約20年の後に、この地元・愛知県に遣わされることになりました。名古屋学院高校の時に、洗礼を受け、牧師の道へと歩んでいます。どうぞ、これからもよろしく願いいたします。

さて、2020年のクリスマスを迎える季節となりました。クリスマスと言えば、子どもたちはワクワクするものです。私も同じです。クリスマスのデコレーションを、ひと味違うものにするのが、私の楽しみなのです。今、小牧教会の礼拝堂は、喜びにあふれたデコレーションとなっています。聖書に書かれているクリスマスの出来事を、想像力を働かせ形にします。それを子どもたちや教会にお越しになる皆さまと分かち合う。この上ない喜びに満たされるのです。2021年1月6日までデコレーションは飾ってありますので、ぜひ、お子様とご一緒に一度、日曜日に教会にいらしてください。そして、クリスマスの喜びを一緒に分かち合いましょ。

クリスマスと言えば…。子供のころの私にとってクリスマスは、あまり楽しいものではありませんでした。両親が印刷業を営んでいることから、年賀状の追い込みと重なって、クリスマスを純粹に祝うということがあまり記憶にはないような気がします。今思うと、子どもの頃の記憶というのは、意外に残っているものなのだなと感じます。私は、子どもたちには、教会で本当のクリスマスを祝うことを知ってもらいたいですし、これからも、子どもたちと一緒に神さまの言葉を聞いて大きく成長することを祈っています。

2020年のクリスマスに、天使たちが私たちに与えてくれる、神の愛の言葉を皆さまにお届けします。“美しく光輝くクリスマスツリーのように、輝き続けるあなたのすばらしい愛は、必ず、天使たちによって様々なところへ届けられるのです。『互いに愛すること。』それは最も美しく、尊く、かけがえのない気持ちなのです。愛すること。それが私たちに与えられた、神さまからの一番の贈り物なのです。2020年のクリスマス、世界中の人々が、愛に満ちあふれる、幸せで祝福豊かな素晴らしいクリスマスを過ごしますように。メリークリスマス。”

小牧教会 牧師 田中 郷史

☆小牧キリスト教会では、クリスマス礼拝が12月20日(日)午前10時30分から、クリスマス夕礼拝が12月24日(木)午後7時から行われます。幼稚園隣の教会です。どなたでも参加できますので、ぜひご参加ください。

1月給食メニュー

1月12日(火)	デニシュパン	ソーセージ	果物
14日(木)	お雑煮	きなこ餅(さつま芋入り)	果物
15日(金)	カレーライス		果物
19日(火)	クロワッサン	唐揚げ	果物
21日(木)	麻婆豆腐	ご飯	果物
22日(金)	ミートソーススパゲティ		果物
26日(火)	デニシュパン	ソーセージ	果物
28日(木)	味噌煮込みうどん		果物
29日(金)	ひじきご飯		果物

☆クリスマスが近くなると「悪い子にはサンタさんが来ませんよ」などと、サンタさんが、躰の道具に使われることが多くあります。小牧幼稚園では、「サンタさんはどんな子にも来るよ、だからサンタさんが来る日を楽しみにしてね」と伝えます。サンタさんを心待ちにする子どもの心を大切にします。100人子どもがいれば、当然100人の特性を持った子どもがいます。子たちは、ある時は喧嘩をし、ある時は誰かを助け、ある時は悪いことをするでしょう。それが人の有りようです。その中で、何かを待つ、楽しみに待つことは、大人も子どもも素直な心になるのではないのでしょうか？プレゼントを待つだけでなく、誰かと会えるとか、今のシーズンですと、冬が来るのを待ち、もうすぐ雪が降るかな？と心待ちにする気持ちは素直で優しい心になるのではないのでしょうか。それは、明日が来るのを楽しみに待てる気持ち、その環境があると、明日への希望が湧いてきます。毎朝、お庭で子どもたちを待ちます。毎日のことですが、親子でくる子は、別れが辛い子もいますが、大方の子は、親の顔を見ず、さっさと、園に入ってきます。また、バスでくる子は、バスから、みどり組を最初によーいドンのように飛び出して、一目散に駆け込んできます。その後を、小さい組の子が、負けるものかと、飛び出てきます。毎日幼稚園には、何か楽しみが待っている、そんな感じで駆け込んできます。その様子を毎日見て、この様子がいつまでも続く明日がある幼稚園であり続けたいと願います。

毎年、バザーの収益を様々なところへ献金してきました。今年は残念ながらその機会を失いました。団体からお願いの手紙も頂いています。個人的にお送りしているところもあります。震災で親を失い、施設にいる仙台の子どもたち、アジアの貧しい地域で、戦争の中で過ごしている子どもたち、それぞれの場所で、幸せが持てるように生きようとしています。小牧幼稚園の子どももコロナ過の中、来年こそ、共に「明日へ希望が持てる」日々を過ごせるよう願っています。

